



7 JULY 2004

vol.8

緑の列島ネットワークニュースレター

今号のトピックス	page
■ 2003年度第4回理事会（2004/4/17開催）報告	1
■ 特集「会員の思い」	2
■ 今後の活動予定・活動報告	3
■ 新コーナー 読み物「森の文化 木の文化」	4
■ 新コーナー 会員紹介「人」	5
■ 新コーナー 読み切りミニトピックス「知っていますか」	5
■ 事務局からのお知らせ	6

理事会報告

2003年度第4回理事会（2004/4/17開催）報告

2003年度第四回の理事会が、2004年4月17日、OMソーラー協会東京事務所にて、新旧理事が出席する拡大理事会として開催されました。

この理事会開催に先立ち、新旧理事が顔を揃え、報道関係各社に「新旧代表理事の挨拶と今後について」の記者会見を30分にわたって行いました。

理事会として、NPO法人緑の列島ネットワーク設立の功労者である前代表理事の長谷川敬さんを名誉会長に任命したほか、前理事の小池一三さんを名誉理事に、前代表理事の鈴木有さんと前理事の熊崎寛さんを相談役として任命しました。

事務局の名古屋へ移動後の引き継ぎ進捗状況につき理事長大江忍さんから報告があり、併せて新事務局の実務担当責任者として、佐野喜美子さんを事務局長に任命しました。

看板等への緑の列島ネットワークの「近山ロゴ」使用について検討がなされました。かねてより会員の皆さんから、看板や活動のチラシ等にロゴを使用したいという要望がありましたが、時に誤解を生じさせかねないケースも見られました。そこで私たちの活動の大切なシンボルであるロゴ使用については、理事会でガイドラインを設け、そのガイドラインに沿った用途にご利用いただけるよう、利用申請をしていただくことになりました。今後、ホームページ等で詳細についてお知らせしていきます。

緑の列島ネットワークホームページ

→ <http://www.green-arch.or.jp/>



↑ リニューアルされた緑の列島ネットワークホームページ

新体制移行に伴い、ニュースレターもその内容を一新することになりました。正会員の江嶋景子さんを編集責任者に迎え、誌面を通じて会員の皆さん相互の情報交換・交流が進むよう工夫を凝らしていきます。

7 JULY 2004  
NPO法人緑の列島ネットワーク  
ニュースレター



## 『会員の思い』

新体制への移行に伴い登録情報の変更をお願いしました。その際に多くの「運動に寄せる思い」を頂きました。ここでは、そのごく一部ですが代表的なものを紹介し、会員間の対話・情報交換のきっかけにできたらと思います。ホームページ上でもご覧頂くことができます。

今後にも必要に応じて特集のページを設け、会員の活動の周辺にある話題などを紹介していきたいと考えています。こんな特集をして欲しい、こんな特集を自分でしてみたいなど、会員の皆さんのご提案をお待ちしています。

### 生活者の声

#### 木守人の声

適正な価格流通によって本物の建築者と手を結んで行きたい。(Yさん 埼玉県)

小さな杉林も有ります。自分の木で自分の家を作る事さえ考えられない時代、山が荒れています。少しずつですが、山に入る時間を作って、里山の再生に努めています。(Oさん 岩手県)

森林を守るものとする、エンドユーザーとの交流を深めたい。(Yさん 岐阜県)

お施主様と一緒に山から家づくりの流れをともし学び家づくりが出来れば最高なのではないでしょうか？あまりにも請け主義になってしまうようでは、地域活性や里山の復活にはなりません。ぜひ、原点に戻りそういった思いの設計事務所や工務店を主体に活動できるようなシステムが作ればと思います。(Mさん 長野県)

立ち上げからの3年間、緑の列島ネットワークの名前はメディアに大きく取り上げられることも多々あり、確実にこの運動は“宣言”という形で動いてきたと思われまます。しかしながら、会員の皆様の積極的な活動に比べて、緑の列島ネットワークとして全国にひろがる輪をつなげ、実際にたくさんの活動するまでには残念ながら至っていません。今後、緑の列島ネットワークを更なる会員の交流の場、情報の場とするために事務局も多くの案を皆様に提案できればと思っています。

会員の皆様には、今年1月に再度登録をお願い致しました。ご協力をありがとうございました。皆様の

実家が林業・製材業を細々と営んでおり、山の中で育ってまいりました。自然、また地域の活性化のためにも、流域でお互い理解・協力し合うことを願っています。(Sさん 和歌山県)

森づくりのコンサルティングを仕事にするなかで、この運動に出会いました。家づくりの方から森づくりの変革を促していくことが重要だと思っています。(Mさん 大阪府)

### 建築者の声

地産地消、スローライフ、拡散したマインドを身の丈に戻すこと。住まいづくりは生活づくり、できるだけ「近くの山の木」を使ってつくる。住宅のみならず国産材を身近なところから使うこと。杉や桧で家を建てるのがかつてのように当たり前でありたい。「敵」はしたたかだがしぶとくやっていくしかあるまい。(Mさん 香川県)

近くを流れる豊川上流で産出される三河材の普及に努めています。地元の小中学校の教室に杉材を貼る運動の活動。そして夢は全国展開へ。(Iさん 愛知県)

趣旨は大賛成。すぐできる具体的な運動がしたい。よろしく提起願います。(Tさん 愛知県)

最近の無垢材ブームで儲けようという会社ができていますが、そんなのではなく、山の人、職人、施みみんなにとって良いような建築業界になって欲しい。(Wさん 神奈川県)

ご意見を無駄にすることがないように事務局としても努力していきたいと思ひます。会員再登録の際に、頂いたご意見の中に『何か実際に行動を』というご意見が非常に多くありました。これは、前述しました当ネットワークのこれまでの動きに対するご意見と思ひ、事務局も真摯に受け止めています。

※この思いに関する意見を事務局までお寄せ下さい。また、思いを同じくする人同士を事務局が仲介して、顔の見えるネットワークを広げたいと思ひます。この人を紹介して欲しいという方、事務局までご連絡下さい。

7 JULY 2004  
NPO法人緑の列島ネットワーク  
ニュースレター



## 『今後の活動予定』

### ■2004年8月28日(土)、29日(日)に京都フォーラム2004を開催します

賛助会員の関西自然住宅推進ネットワークが主宰する京都フォーラム2004では、28日に京都商工会議所にて『木の文化の復権を通して、日本の森林をよみがえらせる』と題する基調講演(岐阜県立森林文化アカデミー学長 熊崎實先生)とパネルディスカッションを行います。(参加料500円)翌29日には京都府美山町の見学会も催され、地元の方々の案内で近くの森の現状を見学します。参加申込書は緑の列島ネットワークホームページからダウンロード出来ます。多数の会員のご参加をお待ちしています。

## 『活動報告』

### ■MOKスクール東京2003が3月に終了しました

2003年9月に〇名の受講生を集めてスタートしたMOKスクール東京は、好評のうちに3月に終了しました。

### ■近山スクール名古屋2004の開講記念特別講演会を開催しました(写真左下)

「近山スクール名古屋」では、2004年5月22日(土)名古屋工業大学にて、「近くの山の木で家をつくるということー佳き家・佳きまちづくりから地球環境問題への対処まで～」と題して、緑の列島ネットワーク相談役の元秋田県立大学木材高度加工研究所教授 鈴木有先生をお招きし、木の家をつくりそこに住むことの意

義を、環境保全や、住まい手の健康、伝統文化・技術といったさまざまな側面から解説していただきました。近山スクール受講生や、昨年度のMOKスクール名古屋OBの他、一般からも多数の参加者があり、活発な意見交換が行われました。

### ■八ヶ岳家造りの会「木の香」(中部ブロック地域グループ)が2004年5月22日から6月6日にかけて、ストローベイル・ハウス[藁舎(わらや)]のワークショップを行いました。(写真右下)

ストローベイル・ハウスとは、藁を圧縮してブロックにしたものを積み上げて固定し、その上から土を塗って仕上げる、高度な断熱性と吸湿性、遮音性を有する建物のことです。

このイベントでは、ストローベイルと在来木構造を組み合わせ、発酵バクテリアによる敷地内完結型排水浄化システムを施した環境循環型・低エネルギーの家づくりを紹介されました。

### ■近山スクール名古屋2004が開講しました

近山スクール名古屋が6月18日に無事開講しました。定員を上回る受講希望があり、多少の定員オーバーを抱えながらのスタートですが12月末まで講義の他、一般のかたも参加出来るフィールドワークやフォーラムなどを多数展開していきます。7月17日には岐阜県立森林文化アカデミーの協力の下、十数体の試験体を用いて行います。



近山スクール名古屋2004年の開講記念 特別講演会の様子



八ヶ岳家造りの会「木の香」が行ったストローベイル・ハウス「藁舎(わらや)」ワークショップの様子



## 『森の文化・木の文化』

## 『巨樹を追いかけて』

今回は巨大な木“巨樹”（きょじゅ）にこだわって活動される画家の  
小木曾真司さんを紹介します。巨樹への思いと、また現在の山をめぐる  
動きについてもお話をいただくことが出来ました。



熱田の楠  
巨樹を描くきっかけとなった熱田神宮の大楠

小木曾さんが巨樹に見せられたのは、今から15年前に  
名古屋市熱田神宮に出かけた際に出会った大楠がき  
っかけだ。その姿、形、存在感、重量感に感動して筆  
を取った。しかしながらその『すごさ』を簡単に画面  
上に表すことは難しく、それ以来巨樹の存在は小木曾  
さんを夢中にさせているという。昨年には55歳で教職  
を退き、現在は日本を北から南へと巨樹を描く旅を続  
けている。

巨樹の魅力を小木曾さんは、次のように語る。1つ  
目は巨樹の“知恵”だ。人間の知恵とは違う形である  
が、木や植物は地球上で生き抜くためにそれぞれ“考  
えて”生きている。それは科学的にも証明されている  
ことで、人間もそこから学ぶべきものがあるという。  
巨樹がこれだけ長く生きているということは、全ての  
生き物が周りの環境に合わせて生き抜くことが可能な  
のではないかとのではないかと考えるそうだ。2つ目  
は、巨樹を育てる環境だ。木自体の力だけでなく、土  
壤、他の植物や動物などが巨樹を育てている。それだ  
けに巨樹が減ってゆくのは環境の悪化と軸を一にする



上野護国院スダジイ  
今を精一杯生きる『朱夏』という巨樹のイメージを表した作品

ように思われるという。3つめは、人々の生活に根を  
はり、気持ちをつなげていること。小木曾さんの作品  
展に訪れる方の中には、自身の思い出の木の話をされ  
ていく人も多考えるそうだ。2つ目は、巨樹を育てる  
環境だ。木自体の力だけでなく、土壌、他の植物や動  
物などが巨樹を育てている。それだけに巨樹が減って  
ゆくのは環境の悪化と軸を一にするように思われると  
いう。3つめは、人々の生活に根をはり、気持ちをつ  
なげていること。小木曾さんの作品展に訪れる方の中  
には、自身の思い出の木の話をされていく人も多いと  
いう。

小木曾さんは、現在のような木材の海を越えた、大量  
消費にも警告を鳴らす。そのために、私たちが木の出  
所を忘れ、その大切さに鈍感になってしまっている  
という。そして、この動きは人間のおごりを野  
放しにし、最終的には人間の生き方を苦しめること  
になるだろうと。

小木曾さんの故郷、岐阜県上矢作町は1950年代から  
70年代にかけて林業で栄えた。また、ご実家も製材所  
を営み幼少から青年期までをそういった環境で過ごさ  
れた。しかしながら、日本全国の林業の衰退の  
多分に漏れず倒産を迎え、同時に間伐もままならな  
くなった山が目立つようになったという。そして2000  
年の東海豪雨では、密集した植林樹の根がその弱さゆ  
えに豪雨に耐え切れず、非常に大きな被害を引き起  
こした。被害を深刻化させた背景には、放置された木材  
の流出があったという。『換金木（桧や杉）ばっかに  
したから山が弱ってただわ。かなぎ（雑木）と換金木  
とをよう考えてうえにやいかなんだが・・・』そんな言  
葉を、災害後の故郷で聞いたそうだ。経済の論理が中  
心となって山を操作し、不要になれば放置するという  
あり方を小木曾さんは厳しく批判している。また経済  
だけの理由から山や木へと注目するだけの時代は終  
つたと話した。

教職を辞めた今、小木曾さんは全国の巨樹を求めて旅  
をしている。春は桜前線と共に北上し各地の桜を、5  
月には屋久杉を描いた。桜は来年、再来年というよ  
うに続けたいそうだ。今後、故郷の岐阜県上矢作町や名  
古屋市民ギャラリー、東京などで作品展を予定されて  
いる。

7 JULY 2004

NPO法人緑の列島ネットワーク  
ニュースレター

4

『人』



「身近な人工林を見つめなおしませんか？」

私は仕事や趣味の山歩きを通して、様々な人工林を見てきました。紅葉で山全体が燃えているかのような吾妻川上流域のカラマツ林。珍しいシダを求めて歩き回った尾鷲のヒノキ林。アシウスギの異様な姿と、天然林と人工林の境目に首をひねった京都芦生のスギ林。松枯れが広がり、繁茂するシダの海をかき分けつつ歩いた瀬戸内山中のアカマツ林。そして、屋久島ではスギの原始の姿を垣間見ることができました。里山に隣接する今の職場では、学生と一緒に雑木林を歩き、その大切さを学生に伝える機会を得ています。さらに、炭焼きやシイタケ栽培を通して、雑木林は生き物の豊かな空間であるというだけでなく、私たち人間に再生できる恵みをもたらしてくれる空間であるということを実感しております。この'再生できる恵みの空間'という点で、人工林に対して

も徐々に認識が改まってまいりました。冒頭、様々な人工林を'見た'と書きましたが、今思い返すとそれは単に'歩いた'という程度に過ぎません。雑木林にしる、人工林にしる、人間が豊かな生活を送るためには必要不可欠な存在です。そのような視点で人工林を見てこなかったこと、体験していないことに後悔は尽きません。そして今、あらためて各地の人工林を見つめなおしたいと考えております。みなさんの住む地域にはどのような人工林がありますか。きれいに管理された人工林。地域の歴史的遺産となっている人工林。生き物の豊かな人工林。手を入れる人もおらず荒れ果てている人工林。全国には樹種の違い以上に、それぞれの地域独自の人工林があり、多くの方々がその地域ならではの形でかかわっていることと思います。直接人工林にかかわることがない方も、この「近くの山の木で家を作る運動」を通して、専門家の方に案内してもらい、教えてもらうという経験をされていることでしょうか。そのような方にとって、まずは教えてもらうことが人工林に親しむ第一歩となります。では、次

の一步として、みなさんの目を通して身近な人工林の現況を調べていただけないでしょうか。この提案には、次の3つのポイントがあります。

- ①受身ではなく自ら何かを見つけようという気持ちで新たな発見を生み出し、身近な人工林への親しみや愛着を深める。
  - ②全国くまなく、人工林の現況が網羅される。
  - ③「近くの山の木で家を作る運動」の裾野を広げる。工林を生かし、より良い状態で将来に受け継いで行くことにつながるかと私は考えます。
- ただし、私を含め人工林に直接関わることのない者がいきなり出かけても、どこをどう見ていいのかわかりません。誰でも気軽に人工林に出かけて調べることができるような、指針を示したマニュアルを作成する必要があります。例えば、(財)日本自然保護協会で行われている「みじかなしぜんかんさつ」という運動が参考になるかと思えます。マニュアル作成には、林業、建築、森林など、さまざまな分野の方々のご指導を仰がねばなりません。ご賛同いただける方がいらっしゃいましたら、どうぞ協力をお願いいたします。

宮内さんの提案に興味や、質問、またはご協力頂ける方は事務局までご連絡ください。

読み切りトピックス

『知っていますか』 上下流交流:

一つの川の上流の地域と下流の地域との交流を『上下流(じょうかりゅう)交流』といいます。同じ水を共有する水源地域と受益地域との交流です。大きな目的は水源林基金などを利用した上流域の森林整備による高品質な水の確保ですが、実際に下流住民が上流地域に出かけ、一緒に下草刈り、間伐などの森林整備を行います。交流が行われることで相互理解、また子供たちへの環境教育も行われます。この交流は世界的な動きで、昨年京都で開かれた世界水フォーラムにおいても大きなテーマの一つとなりました。特に世界では何カ国にも跨いだ大河があり、その流域の統一された管理は非常に重要です。南アメリカでは上流の貧困層住民による森林伐採などが原因で下流に大きな被害をもたらして来ましたが、上流の植林、住民への環境教育などを下流の自治体が積極的に行ったことで状況は格段に良くなっています。日本でもたくさんの自治体が交流を行っていますが、各自治体の財政難により行き詰まりを見せる交流もあるようです。また下流の地域はたくさんある上流地

域から他の自治体を選ぶことができ、上流地域も交流を継続発展させるためにはオリジナルのアイデアが求められています。私たち緑の列島ネットワークも、たくさんの川を媒体とした上下流交流の一つだといえるでしょう。森林、地域、木造住宅など様々な観点から、たくさんの交流が生まれることを期待します。ここに挙げるのはほんの一部の例です。他にもたくさんの自治体が交流を行っています。

- 横浜市と道志村  
[\[http://www.city.yokohama.jp/me/suidou/index.html\]](http://www.city.yokohama.jp/me/suidou/index.html)
- 東京都と群馬県：利根川水系の上下流交流  
[\[http://www.tonegawa-joukaryuu.gr.jp/\]](http://www.tonegawa-joukaryuu.gr.jp/)
- 日進市と木祖村：木曽川水系の上下流交流  
[\[http://www.kisomura.com\]](http://www.kisomura.com)





## 『事務局からのお知らせ』

### ■ 会員資格の更新時期になりました

7月31日をもって2003年度が終了し、緑の列島ネットワークは、8月1日から新たな会計年度に入ります。会員の皆様の資格更新が必要となりますので、更新手続きと2004年度会費の納入をお願い致します。

### ■ 「地域グループ」登録がホームページ上でできるようになりました

NPO法人緑の列島ネットワークホームページから「地域グループ」の登録ができるようになりました。(http://www.green-arch.or.jp/group\_sheet\_enter.html)今年1月の事務局体制刷新にともない、旧「地域ネットワーク」が廃止され、あらたに、正・賛助会員3名以上が集まって地域グループをつくるできるようになりました。山に林業体験に行く、近くの山で建てた家の見学会をする、子どもと川上から川下までウォークをするなど、いろいろな活動が考えられます。地域グループを作れば、緑の列島ネットワークのWebサイトを利用して活動の輪を広げることができます。「活動紹介のページ」をつかって、メンバーの募集などができるほか、ニュース欄で、イベントの告知、活動の報告などもできます。近くで活動している既存の地域グループに入ることもできます。地域グループをつくりたいけれど、近くに誰もいない、という方、事務局までご相談ください。ネットワークづくりのお手伝いもいたします。旧「地域ネットワーク」としてすでに登録が済んでいるグループも、新たに「地域グループ」としての再登録が必要です。紙媒体の登録シートが必要な方は、事務局までお知らせください。

### ■ ホームページのリニューアルが進んでいます

上記の地域グループ登録システムの外、緑の列島ネットワークのホームページがいよいよ皆さんの活動のプラットフォームとして機能し始めました。まだまだ足りないところもたくさんありますが、皆さんの草の根の活動を広く社会に発信していくために、これからも改善を重ねて行きたいと思えます。情報交換や交流の場として是非活発にご利用ください。

### ■ 「地域リポーター」(ボランティア)を募集します

顔の見えるネットワークづくりのためには、地域単位での地道な活動が何より重要です。事務局では把握しきれない地域のイベントや取り組みについて、地元の人ならではの細やかな取材をしてくださる方を募集しています。お時間の許す範囲で結構ですので、ご協力いただけるかたは事務局までご連絡ください。

### ■ 地域グループの「活動予定・活動報告」を募集します

地域グループがイベント等を行う際には、事務局にその概要や日時などをお教えてください。活動予定を発表して下さったイベントについては、活動報告をこの誌面やホームページに掲載していきます。

### 編集後記

ニューズレターが今回から全面的にリニューアルされました。企画から誌面構成にいたるまで、これまでの見直しから始めてさまざまな作業があり、発行が遅れましたことをお詫びします。

こうしてリニューアル第1号を無事皆様にお届けできて編集担当一同ほっとしています。この誌面が皆さんの意見交流・情報交換の場としてどんどんと利用していただけることを願っています。ご意見や、ご要望など事務局までお気軽にお寄せください。

平成16年7月19日発行  
特定非営利活動法人  
緑の列島ネットワーク事務局  
理事長：大江忍  
[\[http://www.green-arch.or.jp\]](http://www.green-arch.or.jp)  
〒450-0003  
名古屋市中村区名駅南1-3-15  
サントピアビル3F  
tel:052-566-0064  
fax:052-566-0074  
E-mail:jimukyoku@green-arch.or.jp

編集主幹:江嶋景子、誌面構成:菊地晃生

